

令和6年度「市長と話し合う会」

令和6年12月15日

1. 開会

☆事務局

皆さん、大変長らくお待たせいたしました。

本日は、公私ともご多用の中、「市長と話し合う会」にご参加くださいます、誠にありがとうございます。

最初にお願いでございますが、この会は一般公開となっております。主な内容を「広報もばら」に掲載するため、担当の職員が写真撮影および録音をいたしますのでご了承くださいと存じます。

また、携帯電話、スマートフォンをお持ちの方は、大変恐縮ですが、マナーモードに設定をお願いいたします。

それではただ今から、「市長と話し合う会」を開催いたします。

初めに、市原市長から、ご挨拶を申し上げます。

2. 市長あいさつ

☆市長

皆さまおはようございます。

本日は市長と話し合う会を開催しましたところ、休日にもかかわらず、皆さまにご参加をいただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃より市政につきましてご理解・ご協力をいただいておりますことに重ねて御礼申し上げます。

それではテーマの説明に入ります前に、私から本市における現在までの主な取り組みについて触れさせていただきます。

初めに、10月24日から10月29日にかけて、市議会、商工関係者からなる7名の姉妹都市訪問団を結成し、約8年ぶりに姉妹都市オーストラリアのソルズベリー市を訪問してまいりました。現地のオールドリッジ市長をはじめとする市議会議員、また職員の皆さまから盛大で温かな歓迎を受け、短い期間でありましたが、現地に「茂原公園」という名前のついた公園、そこで、我々の訪問に合わせて行っていただきました「茂原まつり」を開催していただきまして、そちらに参加させていただき、地域の方々と友好の絆を確認することができました。久しぶりとなる訪問でありましたが、これからの姉妹都市交流の推進、また両者の関係強化に成果があったものと考えております。その際に私から現地の市長に申し上げましたのは、これまでコロナ禍で交流が途絶えておりまして、また物価高騰

による学生の交流ですね、そうしたものも行えない状況でありましたので、今オンラインが普及しているということ、また時差が約 1 時間であるということ、これを加味しまして今後オンラインを通じた学生同士の交流を、ぜひ行いたいということを提案させていただき、ご了承を得たところでございます。

次に観光振興につきましては、本市出身タレントの小倉優子さんに茂原市観光大使を委嘱し、11月11日に就任式を行わせていただきました。任期は約2年となっておりますが、茂原の魅力や観光情報の発信、またメディアへの露出が多いこともありますので、そこを通じてこの茂原市のイメージアップを全国的に図っていただきたいという狙いがございます。また、マルチに活躍されておりますが、食に関するアドバイザー資格を複数有しております。また、この地域におけます食育、また農産品を使いましたレシピの考案等を用いて、ふるさと納税の強化、そういったところまでストーリーをイメージしております。

次に教育文化について申し上げます。

市立図書館の移転につきましては、移転先であります茂原ショッピングプラザアスモ。こちらを運営する茂原商業開発株式会社と10月10日付けで令和7年3月21日のオープンに向けた契約を交わし、そのオープンに向け、着実に準備をしていると聞いております。

次に健康福祉について申し上げます。

今年度から予防接種法上の定期接種に位置付けられました新型コロナウイルスワクチンの接種につきましては、65歳以上の高齢者を対象として、10月から医療機関での個別接種を開始しております。令和7年3月末まで実施いたしますが、接種費用につきましては、1人当たり11,300円の助成を行っております。

次に高齢者福祉の充実につきましては、介護予防・重度化防止の推進に向けまして、フレイル予防活動に重点を置いて取り組んでおります。10月11日には東京大学高齢社会総合研究機構から、10月31日には茂原市長生郡市歯科医師会からそれぞれ講師を招きまして、フレイル予防講演会を開催しております。また11月26日には、茂原高校の生徒を対象として「フレイル予防セミナー」を開催するなど、幅広い年代において啓発活動に取り組んでおります。

また在宅生活支援につきましては、移動が困難な高齢者等への買い物支援事業としまして、株式会社カスミとの包括連携協定に基づき、昨年6月から移動スーパーの運行を実施しておりますが、より幅広い要望にお応えするため、11月11日より時間や販売場所等の見直しを行ったところでございます。

次に産業振興について申し上げます。

11月3日に茂原ショッピングプラザアスモにおきまして、34回になります茂原市産業まつりを開催いたしました。昨年は台風の関係で行うことができませんでしたので、2年ぶりの開催となりましたが、40の団体が出展した他、来場者約8,000人を迎えることができたということで、地域の産業、また環境に対する認識を深めていただけたものと考えております。

次に創業支援につきましては、「茂原創業塾」を茂原商工会議所との連携により開催しまして、経営、財務、販路開拓といった創業に必要な知識の習得に繋がる全8回の講座を、21名の方が修了されております。現在、大規模な会社等の誘致を合わせて行っておりますが、やはり地元に着目した中小企業、こうした企業の育成、そうした開業に向けての支援を行っております。

次に安全安心についてです。

明治橋の架け替えにつきましては、当初の計画では令和7年3月末の開通予定をしておりましたが、令和5年9月8日の大雨災害を受けたことにより、3カ月以上の遅れが生じております。予定した期日の完成が厳しい状況となっておりますが、早期完成に向けて現在取り組んでおります。

流域治水の推進につきましては、6月定例会においてご承認いただきました補正予算により、田んぼダム用落水柵の材料支給を実施した結果、田んぼダムの取り組み面積は本年度当初に比べて約7ヘクタール拡大いたしました。引き続き、治水効果の周知と取り組み面積の拡大に努めてまいります。

防災体制の充実につきましては、地域住民の防災意識の高揚等を目的としまして、今年度は旧新治小学校と本納中学校におきまして、9月8日に地域防災訓練を実施いたしました。当日は関係機関の協力のもと316名が参加し、避難訓練の他、応急給水訓練や炊き出しの配食訓練等を行いました。この配食につきましては下志津駐屯から自衛隊の皆さまにお越しいただきまして、飯盒炊飯をやっていただき、本納中学校で炊いたご飯を郵便局の職員の方々が、もう一つの避難所である旧新治小学校へ移送すると、そういった取り組みも行われたところでございます。また9月11日には、長年にわたる活動が評価されまして、「千葉県災害対策コーディネーター茂原」が防災功労者防災担当大臣表彰を受賞されました。今後も地域防災力向上のため、自主防災活動への支援や防災体制の強化拡充に努めてまいります。

交通安全対策につきましては、自転車に乗車する際のヘルメット着用の普及を目的に、安全基準を満たしたヘルメットの購入者を対象としまして、1人1回に限り2,000円の補助を行う、「茂原市自転車乗車用ヘルメット購入費補助金」事業を10月から開始いたしました。千葉県におきましては、全国的に見ましてもヘルメットの着用率が非常に低い状況でございますので、本市もそれを鑑み、この補助制度を創設したところでございます。

道路網の整備につきましては、都市計画道路桑原八千代線の旧イオン立体駐車場東側80メートル区間におきまして、年内の開通を予定しているところでございます。12月末には開通すると伺っております。この開通により町保地区から宍倉病院西側まで通行可能となりまして、JR茂原駅周辺の自動車交通の分散による渋滞緩和の効果が期待されております。

続きまして、本日の最初のテーマであります「人口減少について」でございます。

本市におきましては、茂原市総合計画「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しまして、本市の人口減少を抑制するための各施策を定めております。全国的に人口が

減少していく中でございますが、本市の人口も減少傾向にございます。2030年に人口85,000人を維持する。こうした目標を立てまして、各種事業に取り組んでいるところでございます。全国的に人口減少が進む中ではございますが、緩やかに人口減少の推移を図ることによって、本市の持続可能な都市としての機能を発揮する所存でございます。本市においては、生まれてくる方を亡くなる方が上回る「自然減」により人口が減少しておりますが、近年では本市への転入者が転出者を上回る「社会増」の傾向が続いております。引き続き、子ども医療費の助成をはじめとした事業の推進により、子育てしやすい環境づくりに努めるとともに、移住を検討している方に選んでいただけるよう、あらゆる機会を通じて本市の魅力発信に取り組んでまいります。またこの移住に関しまして、農業分野でJA長生さんが行っております新規就農の支援センター、こうしたもの今まで茂原市は取り組んでおりませんでした。来年度よりこちらに加入しまして、農業従事者に外部から来ていただいて農業支援を行うことにより定着を図る。そうした農業施策におきましても移住政策を強化してまいります。ご存知のとおり、市内にも休耕田含めた耕作放棄地が増えておりますので、そうした地域の活性化にも寄与すると考えております。

続きまして、本日2番目のテーマであります防災減災についてです。

近年、日本各地で自然災害の影響を受けることが増えてきております。本市でも昨年9月に総雨量405ミリにも達する大雨により多くの住宅等が床上床下浸水の被害を受け、住民の方の生活に大きな影響を与えました。このような状況の中で、今後いつ起きるか分からない災害に備え各自の意識の向上が大切であると考えております。

そこで重要なのは「自助」「共助」「公助」の連携になります。この後、細かくご説明させていただきますが、本市としましても地域全体の防災力向上のために、地域防災訓練の実施や防災組織の支援を行っているところでございます。また現在千葉県におきまして、令和11年度までに二級河川一宮川水系の河川整備を実施しているところでございます。この河川整備、本年度、茂原区間を終了し来年度よりは上流部の長柄、長南そうした地域の治水対策事業に進んでいきます。完成の目標は令和11年ということになっております。本市におきまして重要なものは内水対策として、排水ポンプの整備等を実施するとともに、こちら先ほど触れましたが、河川への負担を軽減させる流域治水対策、これの手段となります田んぼダムに関しましては、農家の方々のご協力をいただきながら取り組み面積の拡大に努めております。さらに報道等で先日発表されましたが、本市では庁内関係部局の情報共有と連携を図り、水害のないまちづくりを推進するため、令和6年12月1日より、組織横断的な窓口「茂原市水害のないまちづくりプロジェクトチーム」を設置し、12月6日に第1回目の会議を開催、今後のスケジュール等について協議いたしました。今後はこのプロジェクトチームを中心に、千葉県と連携しながら早期に浸水被害の軽減が図れるよう取り組んでまいります。

以上、本市における取り組みについて簡単に触れさせていただきました。

この後、各テーマに沿って担当から具体的なご説明を申し上げます。本日は皆さま方の

忌憚のないご意見、ご要望をお聞かせいただきまして、実り多い会としてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。私からは以上です。

3. 市側出席者紹介

☆事務局

ありがとうございました。

続きまして、市側の出席者をご紹介します。

大石副市長でございます。

富田教育長でございます。

渡邊総務部長でございます。

平井企画財政部長でございます。

中田市民部長でございます。

中村福祉部長でございます。

白井都市建設部長でございます。

佐久間教育部長でございます。

菅谷総務部次長でございます。

小高経済環境部次長でございます。

佐久間企画財政部次長でございます。

積田都市建設部次長でございます。

螺良防災対策課長でございます。

最後に事務局となります、私、秘書広報課長の田中でございます。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、初めにお手元の配付資料の確認をさせていただきます。まず「次第」が1枚、その次にそれぞれのテーマごとの資料をクリップでまとめております。1番上が「人口減少について」の資料が1部、その次に「防災・減災について」の資料が2部となっております。また、アンケート用紙を1部配布させていただいております。

よろしいでしょうか。不足等がございますでしょうか。

4. 議事進行者指名

それでは、会を進めさせていただきます。広報等でご案内させていただきましたが、今年度は二つのテーマを設けて実施いたします。

テーマについては、市自治会長連合会と協議させていただき、一つ目のテーマを「人口減少について」、二つ目のテーマを「防災・減災について」といたしました。各テーマとも担当部長より説明を10分から15分程度行ったあと、ご質問やご意見等お伺いし、一つのテーマを1時間程度で終了とさせていただきます。

なお、テーマとテーマの間にはトイレ休憩を10分程度とらせていただきます。終了予定時間は12時を目安とさせていただきたいと考えております。また、説明につきましては、前方のモニターを使用して行います。モニターが小さく見づらいこともあろうかと思いますが、画面に映す内容につきましては、お手元に配布させていただいた資料と同じものとなっておりますので、ご了承いただきたいと存じます。

それではこれ以降の議事進行は、茂原市自治会長連合会の役員お二人の方にご協力をお願いしたいと思いますのでご紹介させていただきます。

自治会長連合会の古作副会長、同じく内海副会長でございます。

お二人は、前の席にお進みください。

それでは、よろしくお願い申し上げます。

◆司会

おはようございます。本日の司会進行を仰せつかりました茂原市自治会長連合会副会長の古作でございます。よろしくお願いいたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます、茂原市自治会長連合会の副会長を仰せつかっております上太田の内海です。どうぞよろしくお願い致します。

◆司会

それでは始めさせていただきます。

会を始める前に、皆さま方に何点かお願いがございます。

本日は、テーマを二つ設けてあります。最初にテーマに対して市側の説明をお聞きいただいた後で、説明内容など、テーマに関連したご質問やご意見等をお伺いいたします。

次に発言方法でございますが、発言なさる方は必ずお名前、または団体名をおっしゃってください。また、できるだけ大勢の皆さまよりご質問をいただきたいと思っておりますので、お一人のご質問は1問まで、3分以内でまとめてご発言をお願いしたいと思います。

最後に先ほど事務局よりお話しがございましたが、本日の「市長と話し合う会」の終了予定時間は12時を目安とさせていただきたいと考えております。

進行につきまして、皆さま方のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、始めたいと思っております。

まず、最初に一つ目のテーマ「人口減少について」、担当部長より説明をお願いいたします。

5. テーマ1 「人口減少について」

☆企画財政部

それでは「人口減少について」でございます。資料に基づいて説明の方させていただきますが、はじめに今年の7月、国連から発表された世界人口はおおよそ82億人とのことでご

ございました。今後 60 年間で 2080 年代の半ばには世界の人口は 103 億人でピークに達するものと推計されております。世界的に見れば人口が増加している国々もある中、日本を含む先進国の一部の国では人口がピークに達して、今後 30 年で人口がさらに減少していくものと推計されております。日本国内においては、都市部への人口集中がございまして、特に三大都市圏、東京、名古屋、大阪圏、こちらでは転入超過となっております。一方で、地方部の多くの自治体においては人口減少が進んでございまして、今後、地域社会、経済の維持が困難になる恐れがあると、こういった大きな課題となっております。

それではこれから茂原市の人口について説明をさせていただきます。茂原市の人口について説明をする前に、日本全体の将来の人口について少しご説明をさせていただきます。まずこちらのグラフは、今から 24 年前になります。2000 年の日本の人口ピラミッドとなります。いわゆる団塊の世代が 50 歳から 54 歳、団塊ジュニア世代が 25 歳から 29 歳であり、この年代の人口が多いことがお分かりいただけると思います。

次にこちらのグラフが 4 年前になります。2020 年でございます。20 年が経過いたしましたので、団塊の世代が 70 歳から 74 歳、団塊ジュニア世代は 45 歳から 49 歳に移動しております。一方団塊ジュニア世代の子どもに当たる 20 歳から 29 歳までの年代には、人口の多い世代はございません。

次に 6 年後の 2030 年の推計人口となります。それぞれの世代が 10 歳上に移動しておりますが、団塊の世代が後期高齢者となり、日本の人口全体としては減少していきます。参考に 2020 年の日本の人口が約 1 億 2,600 万人、2030 年が推計で約 1 億 2,000 万人になるものと見込まれております。以上が大まかな日本全体の人口の傾向です。

続きまして茂原市の将来人口となります。こちらが 2000 年の人口でございます。日本全体の傾向と同様に 50 歳から 54 歳の団塊の世代、25 歳から 29 歳の団塊ジュニア世代が多くなっております。2020 年も同様に 70 歳から 74 歳の団塊の世代、45 歳から 49 歳の団塊ジュニア世代が多い傾向となっております。続いて 2030 年の推計人口になっても 2020 年と同様の傾向となっております。日本全体が少子高齢化していることは、先ほどご覧いただきましたけれども、茂原市も同じく少子高齢化が進み人口が減少していることがお分かりいただけるかと思えます。

8 ページをご覧ください。こちらの表が、茂原市の令和 6 年 12 月 1 日時点の人口で 85,928 人でございます。これまでご説明いたしましたとおり、近年では人口の減少傾向が続いております。続きまして茂原市の人口の推移を年代別にご覧いただけます。グラフを見ますとこのようなグラフになっております。記録のある大正時代から、人口は少しずつ増加傾向にありましたけれども、約 20 年前の 2002 年、平成 14 年 10 月の 95,356 人をピークに減少に転じてきています。

次にこちらのグラフが茂原市の今後の人口の見通しとなっております。青色の線が 2020 年までの人口の実績値です。緑色の線が「国立社会保障・人口問題研究所」が公表している人口推計となります。茂原市ではこういった人口減少に対して何か対策を打たなかった

場合には、2030年には人口が80,823人、2040年には70,982人にまで減少してしまうとこの表では推計されております。このような人口減少のスピードを緩やかにするために、本市においては、市政運営の指針となる「茂原市総合計画」や人口減少対策の柱となる取り組みを掲げました「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しまして、安心して子育てできる環境づくり、これは結婚・出産・子育てそれぞれのステージで切れ目のない支援を行う、こういったものになります。そして誰もが安心して暮らしていける防災、防犯、交通安全対策の充実、また、雇用の場の確保を目指して企業誘致を行うとか、また先ほど市長がお話されたように、起業する方への創業支援こういったものも取り組んでおります。こういった各施策に掲げた事業に取り組んでいるところでございます。それでこういった取り組みによって、人口を赤色の線で維持することを目標としております。そして2030年の目標人口を85,000人としております。なお、お手元の資料にはございませんが、2024年4月1日現在の人口は86,305人であり、各種の取り組みにより緑色の推計値、85,753人を上回って推移しております。しかしながら赤色の目標値87,497人までには至っておりません。

続きまして11ページ目になります。茂原市の人口は先ほど申し上げた通り減少傾向でございすけれども、人口の増減要因は大きく分けて二つございます。一つ目は自然増減で、生まれてくる方と亡くなる方の差として表しております。二つ目は社会増減で、茂原市に引っ越してくる方と、茂原市から引っ越して出て行ってしまう方等の差異を表しております。人口が減少するパターンといたしましては、自然増減、社会増減両方が減少している場合、また、自然増減、社会増減のどちらかが増えているが、もう片方がそれ以上に減っている場合、この二つの場合がございす。

続きまして12ページになります。茂原市の自然増減、社会増減の状況がこちらのグラフです。青色の線が自然増減、先ほどご説明しました生まれてくる人から亡くなる人を差し引いた人数です。オレンジ色の線が社会増減となっております。先ほど言いましたけれども転入してきた人数と市外へ転出した人数を差し引いた人数となっております。ご覧いただきますとおり、社会増減につきましては令和2年度以降、増加の状況が続いております。つまり転入者が増えてるということです。しかしながら社会増を上回る大きな自然減、こういった状況が続いておりますので、全体といたしましては人口減少が進んでいるという、そういった状況になっております。

次に13ページになります。茂原市に転入した理由ということで作らせていただきましたが、自然減という状況下でも本市を選んで住んでいただける方が増加しているのは、人口減少を結果的に緩やかにしていく上でとても重要なことだと考えております。令和4年10月から令和5年3月にかけて、本市に転入してきた方に対しまして、茂原市に転入した理由についてのアンケート調査を実施いたしました。これは去年の10月3日から令和5年の3月31日までで、回答者数は402人おりました。茂原市を選んだ理由で多かった理由は、通勤・通学に便利、住宅価格・家賃が手頃、買い物が便利、こういった結果となりました。

つまり茂原市に生活利便性を求めて転入してくる方が多いのではないかと考えております。このアンケート結果から、生活利便性の高さは移住者を獲得するための本市の強みとも考えられますので、今後あらゆる機会を通じて移住を検討する方々に対しまして、これまで以上にPRをしていくことが大切であると考えております。

続きまして、14ページになります。移住に関する取り組みについてです。移住者の獲得に向けましては、主に移住希望者に対する情報発信を行っているところでございます。今年度から企画政策課の中にワンストップ移住相談窓口を設けて、移住に関するよろず相談を受け付けております。現在までにメールフォームからの相談が5件、オンライン相談1件、窓口の相談が16件ございました。また茂原市のウェブサイトにてページを開設し、窓口や電話による相談受付の他、メールやインターネットの相談フォームからの相談を受け付けております。相談者のご希望に合わせて、ZOOMなどのオンライン通話システムを利用したオンライン相談も実施しております。ウェブページはこのように掲載してPRを行っているところでございます。その他にも県内外で行われる移住相談にも参加しております。そこで茂原市の移住先としての魅力を発信しております。今年度は12月8日になりますが、東京ビッグサイトで開催された全国の自治体が集まる移住相談会に参加した他、年明けには1月25日に東京交通会館で行われる千葉県が主催しております、移住相談会に参加することになっております。こちらが12月の移住相談会の様子になります。各自治体ブースを開設いたしまして、移住希望者に対して説明をしまいいりました。この日は29組の希望者と相談をしまいいりました。

最後のページになります。茂原市の人口減少の現状の説明は以上となります。引き続き、人口減少のペースを緩やかにするために各施策に取り組んでまいりますので、皆さまのご協力をよろしくお願ひいたします。説明は以上となります。

◆司会

ありがとうございました。それでは、説明のありました「人口減少について」、ご質問ご意見を伺ってまいりたいと思います。発言なさる方は挙手をしていただき、お名前、または団体名をおっしゃってからご発言ください。重ねて申し上げますが、質問要旨は出来るだけ簡潔にお願いしたいと思います。多くの方のご意見をいただくため、皆さまのご協力の程よろしくお願ひいたします。それではどうぞ。

質問① 長生郡市（広域）での対応について

◆質問者 1

私は〇〇と申します。〇〇から来ました。

今回のいわゆる人口減少に対してですけれども、近隣ですね、いわゆる昔の長生郡市と言われた中では、いすみ市とか睦沢町はもう10年以上前からやっております。ですから、これからやるということで茂原市は非常に遅いと思います。彼らのところ見てみると、例

えば空き家の利用促進とかですね、それからいろいろな何と言うんですかね、職業とそれからレジャーの両立とかという形でですね、いろいろな政策を行っております。それから睦沢の道の駅ではですね、住宅の提供で子育て世代が入ると20年経つと無料で提供すると、そういうことまでやっております。段々この辺も人口減ってくるわけですから、茂原市や長生村や一宮町だって、それぞれ小さな所だけで頑張ったってこれ正直言ってあまり意味ないと思います。ですから私としてはご提案としては、もっと広域な対応ということで、昔は茂原が一番良かった頃はいわゆる茂原がずっと広域の合併で他からそっぽ向かれましたよね、非常に借金大国だということで、ですからその辺も含めてなかなかすぐ広域の合併は難しいと思いますけれども、ある程度茂原が主導をとって、皆さんこの近隣の長生郡市の中でそういう全体として分担ですよ、皆さんね、茂原はこういうところ、一宮はこういうところって皆さんそれぞれの得意分野を活かして、あまりこう競合するのではなくて、そういうふうにやっていただけたら、少なくとも市原市長の4年の中で成果が出ると思いますのでぜひ期待しております。以上です。

☆市長

ありがとうございます。まさにご指摘のとおりで、やはりいすみですとか睦沢の、町や市の魅力というものを掲げて、やはりアピールが外部にかなり届いているなというのがあります。ご指摘のとおり茂原市としても特色を活かしつつ、また茂原市だけではなくて長生郡市一体となって魅力を発信すると。そういったものをこれからなるべく早く取り組みたいと思っております。今の広域のところなんですけれども、合併は確保できなかったのですが、広域行政としてご存知のように、病院事業ですとかごみ処理場、消防、水道と生活インフラに関わるものは長生郡市一体で広域としてやっているのですけれども、茂原市はやはり人口が突出して多い地域でありまして、その負担割合が人口割負担になっております。大体年間で約40億から50億ぐらい茂原市が長生郡の広域に拠出してのわけでございますけれども、そういったところも含めまして、人口割だけではない負担割合を各町村の皆さまと協議しながら、かつ長生郡市の皆さんが満足してもらえるような満足度の向上も併せまして進めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

◆質問者1

うまくやる、交渉するには、逆にこちらはその裁量権というかお金の面で持っているわけですから、あまりその人口で比例で持って行けと言ったら、いやそんなこと言ったって、あんた方と少し我々考え違うんだよってことですね、それを一つ武器に使うってですね、他の長生郡の町長さんとか村長さんをやはり指導していくぐらいのメリハリをもってやっていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

◆司会

はい。ありがとうございました。他に何かありますか。

質問② 救急医療について

◆質問者 2

住みやすい街という一つは医療体制。恐らく、ぐさっとくると思うんですけどね、10万人当たりの医師の数、千葉県はかなり下の方なんですよね。その千葉県の中でも茂原市、長生、夷隅関係はどんぶりくらいなんですよね。前の市長さんも少し悲しんでいたんですけどそれをどうするか。特に救急医療に関して言えば、鶴舞には脳神経と心臓があったんですよ。それが脳神経がなくなった。大分、脳神経あそこにあって助けられた方が随分いるのですが突然なくなった。今、鴨川には大きな病院ございますよね。勝浦にもございますよね。塩田病院というのかい。東金にも医療センターというのがありますよね。茂原だけが何となく長生病院がありますけど、皆さん本当に市民の皆さんが信頼できるかというと、少し疑問を感じるんじゃない。それに対してどう考えていらっしゃるか。恐らく医療体制をしっかりとしないと、特に救急医療体制しっかりとしないと私なら来ません。以上です。

◆司会

すみません。今のご質問の方。お名前をお願いします。

◆質問者 2

〇〇と言います。茂原には50年くらい住ませていただいています。20年くらいはこちらの工場。それからあと20年くらいは東京まで通勤してました。決して通勤が不便でなかったです。それだけ言っときます。どうぞ。

☆市長

はい。ありがとうございます。まさにご指摘とおりで、やはり県の中でも、この山武・夷隅・長生というのは一つの医療圏として、病床数の割り当てはされておりますが、本当にご指摘のとおりで、全国でもワーストクラスの医療圏でございます。その中でもこの長生地域というのは、やはり医師が少ない地域でありまして、ここは私も県議時代からずっと取り組んでおりますが、やはり医師の働き方改革等も始まりまして、今ご指摘のとおり循環器病センターのドクターも他の病院に行ってしまう、診療科が保たれなくなったという経緯もありますけれども、今長生病院の、これも先ほどの話をした広域の事業になるのですが、やはり非常に責任の所在が難しく、市民病院であれば責任を持ってもちろんやるのですけれども広域ということで、責任が分散化しているところもありますので、ここは少し私自身も強くリーダーシップを発揮しまして、実はB棟の建て替えというものが計

画で進んでおります。これもやはり広域の事業で、最終処分場、長柄に約 180 億円を掛けて作っておりますが、この費用捻出のために B 棟は先送りということで、コロナも相まって先送りされている状況なのですが、ところが一方で、今年度の春に国が発表したいわゆる病床の割り当て数が、実は山武・夷隅・長生は過剰状態だったので病床は減らせという状況だったのです。ところが今ご指摘のとおり、充足な医療はままならない状況なのに病床を減らす状況ということはいろいろな要因はありますが、いわゆる稼働していない病床があったりということがありますけれども、その中であって、B 棟は 52 床分を現在使っておりますので、国に返還すると、そういう状況下であったのですが、今年度の病床の割り当て数で国が真逆の方針を出しました。これはコロナの病床が確保できなかったというものが反映されているのですが、急性期等におきましては、この地域はもっと増やさないとい、ですので救急という部分の高度救急医療の部分を手厚くしてもいいよというものが出ましたので、これは私としては、B 棟の 52 床を単純に国に返還して、建て替えていいものなのかと。というのも、建て替えは管理棟としましてオペ室、あとは食事、配膳のもの、リハビリ、職員の管理等の収益を生み出さない施設なのですが、これが 50 億掛かるわけです。それを私はすぐやるにはもう少し考えた方が良くはないかと。と言いますのは、長生病院は A 棟、B 棟、C 棟に分かれておりますが、今 B 棟、C 棟というのが現在稼働している大きい病棟で真ん中に所在しておりますが、これがあと 15 年経ちますと、いよいよ 50 年に迫ってきまして建て替えになることが見込まれているわけです。その中で B 棟、C 棟を別々に負担割合を皆さま方にいただいてやることは本当に是なのかというところで、今、民間の病院といろいろな意見を加味しながら、1 回原点に立ち戻ってもう 1 回シュミレーションした方が良くはないかということで、先月、広域議会で行われましたところにですね、B 棟をもう 1 度見直す、業務委託でいろいろな収益データを加味したものを再度立ち止まってやろうということで可決いただいたところでございますので、早急にこの長生病院の B 棟を含めた建て替え、若しくは平地移転するのか、そういったものまで幅広く考えていきたいと思っております。あと民間からも救急医療に対してのいろいろなお話も今来ておりますので、これ本当にスピード勝負だと思いますので、やはり民間のスピードに行政は追いつけませんので、民間の力をうまくいただきながら進めていきたいと思っております。以上です。

◆質問者 2

はい。いいんですけれども、問題はやはり救急医療の方なんですよね。恐らく頭にしても心臓にしても数分を争うような状態ですよね。その辺を改善していかないと。というのは何かというとお医者さんの数なんです。長生病院にどれだけ優秀な医者と呼べるかだと思うのですけれど。設備も含めてですね。その辺を少しお聞きしたかったんです。

☆市長

そうですね。本当そのとおりで、ではどうやって医師を確保するかといいますと、他の地域を見てみますと、現実問題、駅から近くて交通アクセスが良くて、新しい病院に皆さん行くんですね。というのはやはり医療施設、自分たちがやりたい医療が行われる医療施設、設備が整っているところというのを選びますので、そういった面も含めましてやはり建て替えをどういう形で持っていくのか、患者さんにとってももちろんそうなんですけれど、医師にとっても魅力ある医療施設にしなければいけないというところですね。あとはご指摘のとおり、今心臓カテーテルの手術ができるお医者さんがいないのがこの地域の一番の問題だと思います。脳外科も同じなんですけれども、やはりこの二つは検査がだいぶ進んでいますので、そういった意味で少し保全是されているのですが、やはりいざという時にですね、心臓カテーテルの手術ができるお医者さんを今現在探している状況でして、これもですね、民間の方で少し良いお話が今きていますので、これ早急に進められるように努力したいと思います。以上です。

質問③ 産科医院・救急医療について**◆質問者 3**

はい。〇〇と言います。人口減に関していろいろご説明いただきました。先ほどのお話ですと 2040 年、これにはですね、推計では 7 万約 1 千人ですか、になってしまうと。それを取り組みによって 8 万にどうかおさめたいと。はっきり言いまして私が危惧してるのは、具体的に人口減ることによって、今持ってる施設も持ちこたえられなくなっているというのはこれ自然の道理でございます。12 ページの資料を見ますと、ここで茂原市の場合には社会増が他から見ると結構多いよというふうに言ってます。逆に自然増減が非常にそれをはるかに上回るほど多い。これによって人口減少しているというご説明でございました。ついてはその下の 13 ページを見ていただきますと、茂原市に転入した理由、これが出ています。上から三つ目の赤線引いてるのですが、これは確かにそのとおりだと思います。私はこう思っております。下の方から数えて 1 番目 2 番目、これが子育て・教育環境が整っているが 3 人でした。それと医療福祉の充実が 11 人。ここをどうにかしない限り、このものに関して持ちこたえることはできないです。これは普通の道理の考えです。そこで私の思いはですね、やはり自治体としての力をつけなくてははいけない。それはどういうことかと言いますと、地元で生まれる場所、育てる場所、それと働く場所、最後には老人医療、この 4 つがなければ自治体としての力、整ってこないというふうに思っております。そこで、ご質問させていただきますけど、まずですね、生まれる場所。これに関しては、茂原は 2 医院産科さんがございます。その 2 医院の産科の中で私が聞く中では、具体的に 2 医院とも年齢とともに廃業かなと言うような申し出も聞いております。そこでその点についての考えと今後どのようにしていくかということをお伺いしたいと思います。

☆市長

はい。ありがとうございます。13 ページのところでも私も一番注目したのはその2点だったのですが、ご質問の産婦人科はやはり産む場所の問題というのは一番大きい問題で、今ご指摘のとおり市内に2箇所、先生方に頑張ってもらっているわけですが、やはり高齢化という問題もありますし、あとはもう一つはこれ少し悲しいことなんですけれども、実際、出生数が400をきってきているわけですし、一つの産科医院の経営を考えたときに、やはりこれが幅広くやったからどうかというと、経営的には分散化してしまっていて、1医院の収支が悪くなっていく状況にもう入ってきていると思うのです。となるとやはり今産婦人科というものはチーム医療ですので、やはりドクターに集積していただいて、助産師含めて医療スタッフともですね、そうなりますと比較的分散してるよりは1箇所にチームで集まってやっていただく方が良いかなというのがやはり道理だと思いますので、そうなると先ほどお話に出てきました、長生病院には今無いのですけれども、もう一度産婦人科を復活させまして、そこに先生方に来ていただいて、それでチーム医療として産婦人科を存続させると。これは完全に私見なんですけれども、私のイメージとしてはそういうところも良いのではないかと考えております。これは先生方にも提示はまだしていませんので、細かい数字をもって一度お話を申し上げたいと思っております。それでやはり長生病院の、私この間全部見ましたけれども、以前ありました産婦人科は今使える状況ではなくて、また新たな施設となるとコストが掛かります。であれば、今ある産婦人科の先生の施設を分院みたいな形でも良いのではないかと、とにかく早急にそうした施設整備が必要ですので、そうした方も含めまして協議していきたいと思っております。

◆質問者3

実はですね私、山武・夷隅・長生の医療センターを作った張本人でございまして、具体的に産科をそれこそ作るのに非常に苦慮しました。でもおかげさまで慈恵会医科大学からもらうことができ、そのものについてそこそこ、やっぱり市長いわくチームドクター、これで引っ張ってくるの大変だったのですけれど、せっかく私は望みたいのは先ほどのご質問者と同じで三次救急、山武・夷隅・長生の医療圏の中で三次救急できるのがあそこしかないのですよね。私は産科含めてもう少し、いろいろなやり方あると思うのですけれど、コラボレーションあそことして、そのものを新たな設備投資をするというよりも、コラボレーションすることによって、今の体制をもう少し前向きな形にすることができるのではないかなというふうに思っております。その辺を熟慮していただいて、市民の安心安全をさらに前進を望んでおります。よろしく申し上げます。

◆司会

はい。ありがとうございました。次の方どうぞ。

質問④ 移住対策について

◆質問者 4

すいません。〇〇です。3点ほどお頼みしたいことあります。この前一宮でありました男女共同参画の東大の瀬地山先生の講演会、市役所からも何人か見えてましたけれども、女性に選ばれない都市は減ぶと言われました。それで幾ら人口が増えても産める年代、20歳から40歳代くらいの女性がいないと駄目なんですね。茂原市はそれが減っているそうです。著しく減っているからよく考えた方がいいよって言われました。だからやっぱり産んでくれる世代にいかにか選ばれる、産科もなくてはいけませんよね。だから、もし私がここに来たら何があればここに住めるかなということがあります。あと流山が今、日本で一番人口が増えてますよね。人口率も日本で第3位です。だから最初から考えるのは大変なことです。一番良いお手本が千葉県の中にあります。それで流山にはマーケティング課というのがあって自分をブランディングするということにすごい力を入れています。こつこつしても少し増えると思いますが、もっと早いのはコマーシャルベース、ゆうこりん使っても良いと思いますが、いかに茂原の魅力をブランディングして、それを日本のいろいろな地域に知らせて移住してもらうということだと思ふんですね。茂原は空き家が増えてますからそれを若い人が住みやすいようにするとか、いろいろな考え方があります。それで、東京なんかも今、AIで婚活アプリを始めました。それで、9月時点で1万3,000人ぐらいの応募があるそうです。だからやはり結婚相談所でも良いですけど、今、皆ネット社会でそういう若い人たちは使うので、茂原に住んでる人がここで安心して所帯を持って安心して子どもを産み育て、そしてここで良い仕事が見つければ良いわけですから、そこは皆さんにいろいろな企業を誘致してもらって、それをまた大きくブランディングして、あちこちに知らせるといふのを市全体でして、やはり市というのは会社と一緒にいかにか売り込むかということだと思ふのです。ぽつぽつやっても多分うまくいくと思ふのですが、やはりこれだけ減りが早いと、うんと上げようと思ふとやはり大きな発信力があって推進していかないと、とてもじゃないけれども消滅してしまうのでよろしく願いいたします。

☆市長

はい。ありがとうございます。本当ご指摘どおりで、流山は大きなテーマ、母になるなら流山というテーマを沿線にも貼ってPRして成果が出ていると。本当に細かいものだけではなくて、大きな市としてのこのテーマを今まさに熟慮中でありまして、やはり、先ほどの資料の子育て教育環境というところも、これが多くなって市を選んでいただけるようにならなければいけませんので、やはり女性の目線というのは、非常に厳しいものもありますけれども、そうした目線も大事にして取り組むように、これも部署、横断的に考えて大きなテーマを作っていきたいと思ふます。やはり住んでもらえるには今東京がやはりあれだけ物価上昇とマンション賃料等の上昇で、やはりみんな若い世代が外部に流出し始めています。それをキャッチしてるのが流山であり、県でいいますと東葛地域だと思ふのですけれども、やはりマンション住居が多いのですね、やはり移住組の茂原に住んでいる若い

世代に聞きますと、やはり一軒家で子ども育てたいのということで茂原市を選んでいただいているというのが見えてきていますので、そうしたところも含めまして住宅開発もしやすいように1月1日から少し、市の方の規制も少し緩和しますので、本当におっしゃるとおりぼつぼつではなくて、それを集積して大きく動かせるようにしていきたいと思います。マッチングアプリも今県の方がアバター使って知事がやり始めてますので、それを少し様子見ながら市も考えたいと思います。

◆質問者 2

保育所の件なんですけれど、どっちだったかな、駅の側に一時預かりというか、何かお母さん方が、例えばその何処か千葉辺りに行くときに、子どもをね、何処かの保育所に預けるの少し大変。それで駅前に、そこに一時的に預かっていただいて、そこからあちこちの保育所に責任ある方が届けて、また帰り逆やるわけですね。そういうことだったらそんなに難しいことではないと思うのでお考えいただければと思います。

☆市長

はい。分かりました。ありがとうございます。

◆司会

はい。ありがとうございました。他にありますか。

質問⑤ 子育て支援について

◆質問者 5

すいません。〇〇と申します。市民のためにいつも働いてくださりありがとうございます。被るのですけれども、茂原市に転入してきて、ずっとここで子育てがしたいとかここで住みたいと思って、またその人たちが育てた子どもたちがまた茂原市で住みたいと思ったら人口って減っていかないと思うのですけれど、今、私子育て世代で皆の話を聞くと、幼児期までは子育てに対する結構サポートがあるのですけれど、就学してからの後の相談窓口であるとか、居場所がすごく少ないという話を聞きます。実際ですね、市民センターとか福祉センターで就学前のお子さん、子育ての支援というのはいっぱいあるのですけれど、就学した後のお子さんたちの居場所というのがすごく少ない。子どもだけと限定してしまうと、そのサポートする大人の数を揃えるのも大変だと思うし、人員揃えるのも大変だと思うのですけれども、皆の居場所みたいな感じで、老人の方であったり、少し障害のある方であったり、そういう方も一緒に集える場所みたいなものを作っていくと、子育て世代の方も、それ以外の方も、居場所ができてここに住みたいと思うのではないかなというふうに思っています。人口が増えた市町村ということでA Iで調べたのですけれど、人口が増加した市町村では良好な雇用環境や住環境整備、子育て支援などの施策が要旨と

して挙げられますと書いてあって、トップだった北海道の赤井川村というところでは、地域興し協力隊を募集していて、子どもの居場所であったりとか、教育のサポートをする人をプロジェクトとして募集していました。このような取り組みも茂原でしていただけたらなと思います。以上です。

☆市長

はい。ありがとうございます。茂原市も地域ごとに福祉センターもありますので、やはりスペース的なものはクリアできると思いますのでその中身ですよ。そういったところの充実。特に今ご指摘いただいたとおり、就学後のサポートというどうしても、まだまだ充足度が低いのかなと思いますので、そうしたところもですね、少し早急に、はい、考えていきたいと思います。ありがとうございます。

◆司会

大分手が挙がっているのですけれども、だんだん時間がせまってきましたので、最後に1人ということをお願いしたいと思います。

質問⑥ 子育て支援について (2)

◆質問者 6

〇〇と申します。先ほどからいろいろと私もそう思うのですけれど、近年、特に神戸とか札幌とか県内では今出た流山とか浦安だとか、松戸、市川、いろいろなところにもこちらの茂原市の方も、現地現場現状を見て、そういういろいろな特色あると思うのですよね。それを持ってきて具現化する。資料にされたらいかがかなと。いずれにしてもお金が掛かることですよ。何にしても。私は思うのですけれど、1世帯当たり月50円とか100円、そういう子どものあれにということで別に徴収して、別会計かなんかして、そういうところを充実して、特に先ほど若い方が東京とかいろいろ、千葉、駅の近く出ましたけれど、そういうところを0歳児から預けるような所を作って、次に資金的援助も頼む。それから皆が豊かになるというふうにした方が私は良いと思う。だから、そういった積極的なですね、住民税のプラス、お願いしたいということです。以上です。

☆市長

はい。ありがとうございます。非常にありがたいお言葉をいただきまして、やはりコストがどうしてもさまざま掛かる部分もあります。もちろん茂原市の財政状況というものもあるのですけれども、やはりご指摘のとおりですね、物事を進めるには最初に投資は必要でありまして、それが最後に人口が維持、若しくは増えるような、そうしたリターンが得られるようなものということで、非常にありがたいメッセージいただきまして、ありがとうございます。

◆司会

はい、すいません。ありがとうございました。皆さんの熱意があるということで、私最後と言ったのですが、もう一人誰かお願いします。

質問⑦ 子育て支援について (3)

◆質問者 7

はい。申し訳ありません。〇〇と申します。〇〇に住んでいます。私はこの間ですね、子育て支援課はじめ、市長さんとのふれあいミーティングにいろいろ意見交換を申し入れましたら快く資料も作っていただいたり、丁寧に対応していただいたことに私は感謝したいと思います。それを踏まえてですね、短くお話しします。今、人口減少を緩やかにするためにということでいろいろご意見があったのですが、私、茂原市は子育て支援は遜色ないと思っています。ただ、今 mismatch を起こしてきているのではないかと考えているのです。子どもと子育て世代と今支援している事業や施策が、時代や要望に合っていない、ニーズに合っていないのではないかと考えておりますので、その見直しをぜひかけていっていただきたいと思います。例えば、とても良いこととして、6カ月からブックスタート、3歳でセカンドブック事業をやっています。学校では読書活動に力を入れられておりますし、図書館司書も配置されてきております。図書館も整備されてきます。一方、子どもたちのICT化が進む中で、子どもの感性を育てたり、想像力を育てたり、それからそういったものを育てる本と絵本には力があります。ぜひそのICT化の中ともう一つ、そういう部分を育てていくには、とても良いことだと私は考えます。そこで茂原市ではそういった0歳から18歳までですね、子どもに関する読書活動の読書計画もあります。ぜひそこをもっと前面に出して、一本串を差して取り組んでいただきたいと思います。図書館は整備され1箇所充実しますが、そこまで行く足がないので地域にある図書室の充実を図り、学校の充実も図りながらお願いしたいと思うのです。もう少し、話させてください。子育て支援センターもあるのですけれど、アンケート調査が今回2,000人の方に行われた中で、出てきていることとしてやはり、子育て支援センターは3歳未満のお子さん、子どもと子育ての方の交流の場なのですけれども、そこが非常にですね、予約と年齢制限と人数制限の制限だらけ壁だらけです。私は千葉市でやってきましたけれど、全然壁はなくて、交流の場として非常に役に立つ施策だと思っています。ぜひこれを茂原市でも、今度6箇所になっていくと思いますので、ぜひここを見直していく、たった一つの例としてあげましたが、そういうふうにあるものをとにかく、ステップアップしていくとか、ブラッシュアップしていくとか、そういったことの見直しをかければ、茂原市に対しての満足度が上がっていくのではないかとと思うのです。あとすみません。それとこども計画についてあるのですが、茂原市は今回、こども計画ということの施策から違った、子ども子育て計画だけを作っておりますが、国とか県とか他の自治体においては、こども計画というトータルで施策が行われています。先日の市議会の一般質問を傍聴したのですけれども、そこ

での見解が子ども子育てのガイドラインに沿って、他市を見ながら実施していくというお答えがございました。ぜひですね、子どもと若者の意見を聞くというのが中心となっていますので、ぜひですね、そこにやはり、子どもと若者それから地域の住民の声を聞く場を作っていたらと思います。要するに最終的に申し上げたいのは、そういった見直しをかけながら、そのためには交流の場、子ども子育てネットワークみたいな市民が参加する形での場を作ってください、そこからやはり見直しもかけていただけたらと思います。すいません。まとまりません。

☆市長

はい。ありがとうございます。そうですね、図書の部分につきましては、私も小学校をまわらせていただくと、非常に今図書室が司書さんもいて充実して子どもたちも喜んで、いわゆる言い方悪いですけど、アナログ的なそういう学びもしっかり確保されてる中で、タブレット1人1端末でICT化も進めると、非常に良い教育は進んでいると思います。それと子育て支援センター、こども計画、先ほどのお話で居場所作りというのは、やはりこれ、みんな繋がっていると思いますので、そういったものを今個別にあるもので満足せずに、それぞれブラッシュアップして、それぞれが共有して、なおかつそれを周知しないといけませんので、そういった意味で先にお話したとおりで、ホームページの使い方を少し考えながら皆さんに行き届くようにしていきたいと思います。

◆司会

はいそれでは、テーマ1の終了時間が到達しましたので、これよりトイレタイムを10分間設けてまた始めたいと思いますので、ひとつ休憩をお願いいたします。開始は10時55分を予定したいと思います。

(休 憩)

◆司会

休憩後の進行は私、内海が進めさせていただきますのでどうぞよろしくをお願いいたします。次に、二つ目のテーマ「防災・減災について」、担当部長より説明をお願いいたします。

6. テーマ2 「防災・減災について」

☆総務部

それでは「防災・減災について」の説明をさせていただきます。私の方からは、自助・共助・公助というふうにかかれた緑色の資料の方をご覧ください。

2ページの方をご覧ください。自助・共助・公助の連携についてですけれども、防災の基本的な考え方では、自助・共助・公助が一体となることにより、地域防災力の向上が図ら

れます。災害による被害を最小化するには、自助・共助・公助の連携が必要となっております。

3 ページをご覧ください。まず自助についてですけれども、自分や家族でできる防災活動のことをいいます。皆さんが避難する指定避難所や避難経路の確認、ご自宅の点検・整備等を行うこと、また、既に実践されている方もいるかと思いますが、3 日分、できれば1 週間分の食料や水などを備蓄することも大切なこととなっております。

4 ページをご覧ください。次に共助についてですけれども、隣近所や地域での防災活動のことをいいます。地域での防災活動として、要ともなる自主防災組織の強化ですが、自治会単位で組織化を進めているものとなります。本市では、現在 94 団体の自主防災組織が設立されており、各地域の自主防災訓練や消火訓練等の防災活動を行っています。また、共助においては、周りの方、地域の繋がりが非常に重要になります。自治会の加入や日頃から近隣の方としっかり挨拶を交わしコミュニケーションをとることも大切な防災活動となっております。

5 ページをご覧ください。最後に公助についてですけれども、これは市や県、消防、警察、またライフラインとなる電気、ガス、水道など、防災関係機関の防災活動のことをいいます。本市におきましても、「茂原市地域防災計画」を定めており、この計画では市や関係機関等の役割を明確にし、災害予防、災害応急対策および災害復旧等を総合的、計画的に実施し、市民生活、身体および財産を災害から保護するとともに、災害による被害の低減を図ることを目的としております。

6 ページをご覧ください。ただし公助にも限界があります。大規模な災害が発生した場合、行政自身も被災し、機能が麻痺することで、迅速な災害対応が困難となる場合があります。また、大規模災害時の公的な救助機関は、県外から派遣されることが多く、到着に時間を要し、早期の対応にも限界が生じることがあります。

7 ページをご覧ください。これは、阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体等を表したグラフとなっております。阪神・淡路大震災では、7 割弱が家族を含む自助、3 割が近隣住民や地域等による共助により救出されております。公助である警察、消防、自衛隊等による救出は数パーセントに過ぎなかったと言われております。このように、自助、共助が大半を占めていることが分かります。行政による支援は限られたものであり、自分自身や家族での備えや地域の助け合い、協力の重要性が大切であると言えます。

次の 8 ページをご覧ください。自助で重要となるのが、ご自身で日ごろから災害に備えておくことが一番大切となります。茂原市洪水ハザードマップに掲載している避難行動判定フロー等を活用して、事前にご自身の避難行動を確認しておきましょう。災害の警戒レベルに応じて無線等で警報が流れてきますが、警報が発令されたからといって皆さま方全員が避難しなければいけないわけではありません。危険な場所から避難するということが重要となります。避難所で生活するよりも、水や電気がなくてもご自宅で生活できれば、それに越したことはございません。有事の際に慌てないように事前に備えていただければ

と思います。

次に 9 ページをご覧ください。共助で重要になるのが自主防災組織です。先ほど共助の部分でも触れましたが、市ではこの自主防災組織について、自治会長連合会の総会などを通じて、立ち上げを進めているところがございます。現在も立ち上げについて相談を受けており、地域において徐々に防災への意識が高まっているというふうに感じているところがございます。

次に 10 ページをご覧ください。自主防災組織における防災訓練は、地域の連帯意識が醸成し、迅速な安否確認や救助活動が行えることとなり、非常に有意義であると考えられております。また、継続して行うことにより、防災知識や技術が習得され、防災力の向上を図ることができます。

11 ページをご覧ください。市では、「あなたの地域にも自主防災組織を」と題して、自主防災組織の内容や必要性、防災や減災への取り組みの他、自主防災組織の作り方や活動、市から団体への助成などをまとめたパンフレットを作成しており、地域での防災拠点として防災、減災力の向上に努めていただけるよう、自主防災組織を立ち上げ、活動していただきたいと考えております。

次に 12 ページをご覧ください。茂原市では自主防災組織に対しまして、各種補助をしております。防災倉庫設置や資機材購入に掛かる一部補助などございますので、既に自主防災組織を立ち上げている自治会の方やこれから立ち上げについて検討をされている場合は、ぜひ活用していただければと思います。

以上で、「防災・減災についての自助・共助・公助」についての説明の方を終わります。この後、都市建設部の方と説明を変えますのでよろしく願いいたします。

★都市建設部

続きまして、青色の帯で「防災・減災について」と書いてあります資料の内容を説明させていただきます。

2 ページをご覧ください。茂原市水害のない街づくりプロジェクトチームについて説明いたします。市では、庁内関係部局の情報共有と連携を図り、水害のない街づくりを推進するため、令和 6 年 12 月 1 日に茂原市水害のない街づくりプロジェクトチームを設置いたしました。

3 ページをご覧ください。趣旨、目的についてですが、本市では、平成元年以降、5 回の浸水被害が発生し、多くの市民が床上床下浸水等の大きな被害を受けております。千葉県では流域市町村が行う内水対策や、土地利用施策と連携した「一宮川流域浸水対策特別緊急事業」を実施し、令和元年 10 月豪雨と同規模の降雨に対して、被害を受けた家屋や主要施設の浸水被害ゼロを目指し、令和 2 年度から一宮川改修事務所の設置や県および市町村から成る一宮川流域治水協議会を設置しました。市では、内水対策、排水機場の適正な管理、ため池の水位調整、田んぼダムの取り組み等を推進してまいりました。このような背

景のもと、庁内関係部局の一層の情報共有と連携を図り、本市における水害のない街づくりを推進することを目的とし、プロジェクトチームを設置いたしました。チームの構成といたしましては、都市建設部長はじめ7課22名の体制で、より一層の施策を推進するとともに、市民の皆さまに分かりやすく見える化して発信してまいります。

4ページをご覧ください。次に河川整備、内水対策、流域治水対策について説明いたします。初めに二級河川一宮川の中流域の整備についてですが、県では令和元年10月25日の大雨による浸水被害を受け、鶴枝川合流点から豊田川合流点までの護岸法立て工事を今年度末までの完成を目指し、工事を進めているところです。また一宮川第二調節池の増設につきましては、令和6年3月末までに貯留容量40万立方メートルを確保し、対岸にある既存調節池の70万立方メートルと合わせて、110万立方メートルへの増量が完了いたしました。また堤防の嵩上げにつきましては、鶴枝川合流点から三途川合流点まで完成しております。

5ページをご覧ください。次に上流域および支川の整備について説明いたします。一宮川の上流域については、一部流下能力が不足している箇所において、河道掘削等の河川改修や一宮川第三調節池の整備等を行い、支川となる豊田川、阿久川については下流部の堤防の嵩上げや豊田川上流部の河川改修を令和11年度までの完成を目指して進めております。

6ページをご覧ください。次に二級河川赤目川について説明いたします。改修状況につきましては、全体延長7.7キロメートルのうち、河道拡幅約4.7キロメートルおよびB調節池が完了しており、昨年度、萱場地先の新桂島堰が完成し、今年度も引き続き堰の上下流の護岸工や新樋橋上流の樋管工、またA調節池における排水施設の土木施設工事を進めていくと県から伺っております。

7ページをご覧ください。次に市の内水対策等の進捗状況につきまして説明いたします。現在、一宮川の河川整備に伴う明治橋の架け替えや、大芝調整池の樋管改修および東茂原地区の排水路整備を継続的に取り組んでおり、笹塚地区においては排水ポンプ能力増強が完了し、本年6月より供用を開始しております。また、これまでに早野排水機場、鷺巣稲荷前水門ポンプゲート、長清水水門ポンプゲートの整備や川中島終末処理場の雨水排水ポンプの能力増強が完了しております。

8ページをご覧ください。次に下水道事業における内水対策等の進捗状況についてですが、令和4年度に策定しました「茂原市雨水管理総合計画」に基づき、現在、本町排水区では、八千代地区の浸水被害軽減のための増補管を整備する設計業務を実施しており、また、富士見第一ノ一排水区では、茂原ショッピングプラザアスモ周辺の雨水管を新設する設計業務を実施しております。引き続き、浸水被害の軽減が図れるよう内水対策に取り組んでまいります。

9ページをご覧ください。次に流域治水対策について説明いたします。現在、県および流域市町村をはじめ、あらゆる関係者が協働して、流域全体で浸水被害を軽減させる「流域治水」に取り組んでおります。市の取り組み状況につきましては、雨水貯留施設等設置工

事補助金について、平成26年10月の制度開始より令和5年度末までに、貯留槽と浸透枮を72基の設置に対し補助を行っております。次に市が管理する調整池の浚渫につきましては、令和5年度までに6箇所を実施し、今年度も1箇所を実施しております。次に令和6年度に新設した浸水防止対策事業補助金につきましては、過去に浸水による被害があった区域、または茂原市洪水ハザードマップによる浸水が想定される区域の建物を対象とし、浸水被害の防止対策に掛かる補助対象経費の2分の1、上限を50万円とした補助を行っており、令和6年8月時点で止水板6件、耐水住宅4件、止水壁1件の全11件を交付決定しております。次に宅地開発等における貯留対策につきましては、市内1ヘクタール以上の民間開発の既存調整池を対象とし、令和3年度より雨水の流出抑制および維持管理の協力依頼を実施し、令和6年度は23事業者、25調整池に対し、本年4月から5月の出水期前に依頼をしたところであります。

10ページをご覧ください。次に特定都市河川および特定都市河川流域の指定につきましては、一宮川水系および一宮川流域が令和5年10月1日に指定をされました。指定されることにより面積1,000平方メートル以上の雨水浸透阻害行為に対して、雨水貯留浸透施設の設置および知事の許可が必要となりました。これらは開発行為等を否定するものではなく、開発等の際に雨水が地面に浸透しなくなる分について、浸水リスクを増やさないための対策を求めるものとなります。雨水浸透阻害行為の例としましては、耕地を宅地や太陽光発電施設にする行為や、ローラー等により土地を締め固める行為、土地の舗装等が挙げられます。なお、既に宅地等の場合には、規制対象ではございません。

☆経済環境部

続きまして11ページをご覧ください。経済環境部所管に関わります流域治水対策についてご説明いたします。初めに農業用のため池を活用した貯留につきましては、今年度より1箇所のため池が新たに加わり、合計28箇所のため池で、8月15日から12月14日の4カ月間、農家さんの方々に水位調整に取り組んでいただいております。昨年度は、27箇所です水位調整を実施していただき、推定値でございますが約30万立方メートルの雨水を貯留いたしました。この水量は、鶴枝地区にあります鶴枝遊水公園として利用されている一宮川第一調節池の貯留量と同等の水量となります。

続きまして12ページをご覧ください。田んぼダムについてご説明させていただきます。田んぼダムは、田んぼの貯留機能を利用し田んぼに雨水を貯め、ゆっくりと河川に排水することで浸水被害を軽減する取り組みでございます。実施状況につきましては、水利組合に田んぼダムの効果などを周知しながら地域ぐるみで協力をお願いし、現在3団体、4地域において約47ヘクタールで田んぼダムに取り組んでいただいております。なお、今年度早野地区においては、田んぼダム用の落水枮を新たに設置し、取り組み面積が約7ヘクタール拡大いたしますので、来年度は全体で約54ヘクタールの取り組みとなる予定でございます。以上で説明は終わります。ご清聴ありがとうございました。

◆司会

ありがとうございました。それでは説明がありました。「防災・減災について」、ご質問ご意見を伺ってまいりたいと思います。発言なさる方は、挙手していただき、お名前をおっしゃってからご発言ください。それではどうぞお願いします。

質問⑧ 鹿島川の整備について

質問⑨ 調節池の管理について

質問⑩ 海拔表示について

◆質問者 8

〇〇と申します。二つ質問と一つお願いなんですけど、ブルーの紙の5ページですかね。この中に鹿島川についての実施、整備について書かれていないのですけれど、この鹿島川については、もう既に終わっているのでも整備について書かれていないのかどうかという質問ですね。もう一つは、調節池が上茂原に三つ今ありますけど、少し聞くとところによると、管理体制がですね、三つの中の二つが県で、一つは市であるというふうにお聞きしたことがあるのですけど、これは間違いないでしょうか。あとお願いは、海拔表示が市内にかなり少ないように思われるのですけれど、各都道府県を見ますと、ここは電柱に何メートルというふうに書いてありますが、茂原市内においてはあまり見ないのですよね。その辺はどのようなお考えのもとに、ここは海拔何メートルとか電柱にですね、表示していないのかお聞きしたいと思います。以上です。

☆都市建設部

都市建設部の方から説明させていただきます。まず、鹿島川についての表示がないというお話ではあったんですけども、こちら県の事業、河川整備についての説明の図になっておまして、具体的に鹿島川につきましては、堤防の高さが本川に比べて低くなっているという状況は市の方も把握しております。その対策については、今後測量や設計を行っていきながら嵩上げについての対策を進めていきたいと、そういうふう考えております。次はですね、上茂原地区の調節池が三つあるということで、県の管理が二つ、そして市の管理が1箇所ということで、その考えの通りでございます。あと海拔表示ということなんですけれど、確かに近隣の自治体においては表示されているところもありますので、その辺の状況とか、どうやっていくのか研究させていただきたいと思います。以上でございます。

◆質問者 8

ありがとうございます。なんでこのような質問をしたかという、調節池について三つあると、一つは市で二つは県ということはですね、一緒に運営管理がうまくいくのかというね。県に問い合わせたり、草刈りにしても早くやってくれとか、そういうことかどうか

分かりませんが、それならば三つとも同じ県だったら県にやって、調節池三つとも同じように運営管理していった方が良いのではないかなと。ばらばらに動いては災害時、これは県だこれは市だというふうになってしまうと、ではないかという少し不安ですね。鹿島川については、一時期嵩上げは一回しているのですが、その後またするかということなんですが、今1メートル位上がっていますけれど、盛るのは良いのですが、ぐずぐずになっている。ただ土を上を盛れば良いという考えで盛ると、地層じゃないですけど、そこに水が入り込んで、そこから水が溢れてくると、流れ込んでくるということになりかねないので、よくよく考えながらいろいろと鹿島川の整備をしていただきたいなど。これについても、本流の一宮川は県の管理ですかね。支流は市の管理というふうになってますよね。ですから、ここも結局バラバラに動くというようなことにならないようにですね、市も県も一緒になって動かないと、それは県だこれは市だ、お前の方でやれというふうにしても市民としては少し不安材料になるなど。あと海拔表示については、やはり、ここは何メートル位あるのかなというふうに車から運転して見ても分かった方が良くはないかなと。特にこの茂原市は十数メートルしかないのではないかなと思うんですよね。大きな津波が来た時にどのように逃げたらいいのか、茂原公園の山の方に逃げるのか、あまり高い山がないんですよね。市役所の屋上に逃げようとか、そういうことになってしまうわけです。ですから早めに、運転していてもここは12メートルだとか、15メートルとか分かれば、なら長南の方へ逃げようとか、長柄の方に逃げようとかというふうになりますが、ここに旅行に来ている人や皆が分からないということで、表示した方が市民の不安を煽るという考えもあるかもしれませんが、そうではなくてやっぱり現実それを知らなければ車で動きようがないと、そこで、市役所のところに皆集まっても下の川が氾濫してしまいますからね。それ知らない人はもう市役所にまた集まれというふうになってしまうと大変なことになると。現状ですよ。そういうことになると思います。よろしくお願ひしたいと思います。

★都市建設部

ご意見ありがとうございます。すみません。先ほど私が回答した三つの調節池について訂正させていただきます。今あります調節池については、全て千葉県管理となっておりますので一律で管理をしていただいております。私が先ほど申し上げたのは、上茂原団地の調整池、そちらは茂原市の管理ということで、すみません。勘違いしておりました。大変失礼しました。その他のご要望につきましては、今後また参考にさせていただきたいと思っておりますので、ありがとうございます。

◆司会

はい。それでは、次の質問よろしいでしょうか。

質問⑩ 地盤沈下対策について**◆質問者 9**

〇〇と言います。日頃の市役所の方の活躍に感謝申し上げます。ありがとうございます。私は水害対策について要望いたします。子どもや孫が安心して住める茂原市を作っていただきたい。そういう思いからです。今の計画の今日発表されました治水工事、これはもちろん重要ですが、これだけでは少し不十分なのです。それは今茂原市は地盤沈下が進んでいます。茂原市議会も地盤沈下について、意見書、今年も出してありますね、9月に出している国土交通省とかの意見書に、地盤沈下が水害に影響しているということを述べています。また市長もご存知だと思いますけれども、茂原市は毎年1年に2センチ、50年で既に1メートルも下がっています。少しせつかく作ってきましたのでグラフを見ていただきたいんですけど、このピンクが茂原市で下がっている。これ県のホームページから取りました。茂原市は綺麗に下がっていますね。2センチ。このまま何もしなければもっともっと下がるということです。それで、そういうことで八千代の交差点は令和元年の時1.9メートルも浸水しています。八千代は当初、昭和43年の設計では堤防と同じ高さに道路を作ったはずなんです。堤防がどんどん上がって、そういうようなことで浸水被害が進んでいます。次に因果関係で、海面等の落差について少しお話いたします。八千代の交差点から近くに八千代橋がありますけれども、この八千代橋の橋脚水位のメモリがあります。これには8メートルということが書いてあります。要するに橋から下8メートルが水位だと。通常の川の水位だということです。防災マップでは、茂原小学校これは海拔9.6メートルと書いてあります。仮に八千代橋の高さと茂原小学校の高さを同じということであれば、その差し引きが1.6メートルです。1.6メートルですと、50年で1メートルずつ沈下していけば、150年で川の水面と海面が同じ高さになります。ただ八千代橋の高さと茂原小学校の高さは、茂原小学校の方が少し高いような感覚ですけどね、気がいたします。ということで、このままではまさに茂原沈没ということが起こります。この地盤沈下については市だけではもちろん対応できないと思いますけれども、地元の市が動かなければ何処もやってくれません。そういうことで早急に対策を講じるように動いていただきたいと思います。

☆市長

ありがとうございます。地盤沈下のご指摘につきましては、ご存知のように県の方でもモニタリングして今の表の結果ということでございます。いろいろな因果関係あると思いますので、そこも調査をしながらご指摘のとおり、地元市としてどういった対策ができるのかしっかり今後検討していきたいと思っております。

☆司会

はい。それでは次の質問ある方お願いします。

質問⑫ 県の検証会議の結果について**質問⑬ 避難所運営について****◆質問者 10**

〇〇です。7月の県の災害検証会議で県の改修工事は完成後、八千代、大芝では内水氾濫のリスクが残ると指摘されました。それで市は、コンサルティング会社に委託されたのでしょうか。それでどのような結果というか、お話をいただいて、これからどう進むかというのをお聞きしたいということと、あと今自主防災とかありますが、横の連携が何もありません。それで、いろいろな情報は役員が新しく変わったりするとできないです。それですごく私は心配して市に電話をいたしました。昔私、地区社協もやっているの、地域でいろいろなことを自主防災やろうと思って自治会とかいろいろなところに働きかけましたが、何で地区社協から呼ばれなきゃいけないんですかねとかで、なんかやはり仕事が増えるのが皆嫌で、だから市の方で市全体が大体同じような避難所とか、自主防衛ができるような音頭をとって欲しいというように市にお電話をいたしました。そしたら係の方に冷たくあしらわれました。いくら市が笛吹けど市民が踊らなきゃ仕方ないんだよって。あなたがやればいけないじゃないかって。冗談じゃないと思いました。それで私は東部小学校が千葉県で真っ先に避難所設営で百何十万円か予算が下りて、すごいなと思って、茂原市が手を挙げたんだと思ってそれにも参加いたしました。教室とか体育館を使ってすごい立派にできました。それで段々それが広がっていけばいいし、あと避難所も皆でどういうふうにするかできればいいなと思ったけど全然ストップされて、私も災害対策コーディネーターもやっています、東部台文化会館の直近動員にもなっています。でも災害対策コーディネーターも皆、なんか私達70代ばかりで皆やる気あるのですけれど、体力はね、短期はできるんですけど長期は無理だろうなと思って。イタリアなんかは被災したところは避難所の設営には携わらず、災害被ってないところが携わるようにというのが大体世の中的にはそうですし、実際自分の家がやられているのにとても避難所なんかに行けたもんじゃないです。それで今、危惧しているのは鍵も市役所の若い職員が持っておりますが、皆聞くと家が遠いんですね、それで、他所で災害があった時、避難所の鍵が開かなくて何十時間とか外で待たされたというのを聞きます。ですからぜひ、避難所の近くの信頼できる自治会長さんとか民生委員さんとか、その方も留守だといけないから外に何かボックスがあって何か番号で開けられるとか、何かそういうふうにして、すぐできるように、あと年に1回倉庫の備蓄品のチェックをいたしますが、避難所をどう使うとか、どのように運営するかというのは私は一度も訓練を受けたことはありません。何かレジュメはあるみたいですが、それをその4人5人の職員と共有して、どうしようというお話はやったことはありません。ですからぜひ、市はある程度、全部視るとするのは大変だと思いますが、ある程度横の人達を繋げて、どういうふうにやっていくかという音頭取りだけをやっていただきたい。でないとなんでお前のところから俺たちが呼ばれなきゃいけないというような何かとても嫌な感じで。良い事しようと思っているのにすごい嫌われちゃって、だからそう

いうのを音頭をとっていただきたいなというのと、あとボランティアセンターの受け付けを市民センターでやった時にすごいミスマッチがあって、何十人何百人って帰したことがあるのですね。私びっくりしましたが、皆さん大阪とか名古屋とか和歌山からいらして、手弁当で長靴ぶら下げて、なのに仕事がないから帰れて無駄に終わっちゃったことがあるんですね。それで皆は周り見えています。沢山困ってる人がいるのに何で帰されるんだって言いました。それで被災している人も何で来てくれないんだって言いました。それは市の中に、被災情報が上にいくようなルートがないからだと思います。それは自主防災であれ自治会であれ、被災したところはワンストップでここに行けば、全部分かるということをしとかないから、社協の職員や日赤の人が外部にあちこち見に行っても限度があります。ですからそれを、茂原のあちこちの被災状態を社協なりそういうところにきちんと報告行けるような網の目のようなそういうルートを作り上げておいてほしいなど。でないと警察、消防あちこちに同じような情報がいって、てんでこ舞いになると思います。だからそういうことがないように整理整頓して、ワンストップでここに行けば全部の人たちが情報を共有できるというようにやっていただけたら良いなと思っております。

☆司会

申し上げます。冒頭申し上げました通り、質問時間は3分以内でお願いします。

☆市長

ありがとうございました。まず県の検証会議を受けて市としての業務委託ですが、先日発注した段階でありまして、これからコンサルの方で検証会議の結果、あとこれまでの内水の状況を勘案しまして、今後茂原市が行うべき内水対策の実際の詳細メニューを出してくるということで、もう少し時間が掛かります。それと避難所のところですが、これはやはりご指摘のとおり窓口が分散化していると有事の際にはまとまりがなく、せっかくのボランティアの皆さまにもご迷惑をお掛けするというので、こうしたところをですね、早急に流れをしっかりと作ることを組み上げたいと思います。

◆質問者 10

市民に伝わるようにしてください。

☆市長

そうですね。もちろん。それと先ほどの避難所の鍵のところは対応できるか検討したいと思います。

◆質問者 10

運営が誰がどう分担するかというのが誰も分かっていない。

☆市長

避難所の運営のやり方のマニュアルがあるけどその想定 of 訓練をしてないということですよ。

◆質問者 10

自治会長もどうしたらいいか分からないって言われたので、皆が分かるようにしてほしい。

☆市長

分かりました。はい。ありがとうございます。

☆司会

はい。それでは次の方お願いします。

質問⑭ 降雨量等のシミュレーションについて

◆質問者 11

ご質問させていただきます。基本的なことを少しお聞きしたいのですが、この辺の川ってほとんど一宮川ですよ。全部降った雨は。例えばこの辺の地域、茂原だけでもいいのですが、茂原で例えば 100 ミリ、1 時間に 100 ミリ降るといった場合に、どの位水量が出て、沈下するやつがあると思うんですけど、それが一宮川で本当に吐けるのか、そういうシミュレーションをやったことございますでしょうか。もう一ついいですか。これ少し突拍子もないことなんですけど、例えば今、一宮川一本しかないの、茂原の何処かそういう一番溜まる場所から直接ですね、九十九里にバイパスみたいな形で流すような水路を作るようなシミュレーションをやったことはありますか。それを少しお聞きしたい。

☆市長

ありがとうございます。先ほどの 100 ミリ降水量ですが、実際に先ほどお話があった県の検証会議のところ、令和元年と昨年の令和 5 年の水害が出た時の降水量、あれでシミュレーションしたんですね。今工事もしていますので、152 億円以上の工事を掛けて今やっているその効果はどうなんだと。税金使ってそうなった時に、今の河川整備計画で行っている令和 11 年までの上流部も含めた工事が全て完了した段階のシミュレーションの結果が出ています。これが元年と令和 5 年の降水量がそれぞれの降ってる地域が上流部とまた茂原で、この間は違いましたので、一概には言えないのですが、河川整備が終われば川からは越水しないと。そういうデータは出たのですけれども、一つ、鶴枝川が越水する可能性はあるということが分かったんですね。今回。です。ですので県は追加で、緊急で鶴枝川に関し

では嵩上げを含めた追加工事を実施するというところまでできています。それでやはり先ほどお話したように、内水氾濫が起きるんです。なので川は大丈夫なんですけれど、内水氾濫は起きますので、その対策を今業務委託でやっている。これは市がやるべき事業ですので早急にやるということです。それとバイパス。私は個人的にその発想を持っていて、いわゆるお知りのとおり、最終的には一宮川に全て集約されてしまって、相当な負荷が掛かっていますので、やはりもう一本水路的なものを海に直接流す、それでこれをやはり経済的に試算しますと、地上権がない50メートルの地下で、シールド工法で行った場合、多分数兆円掛かる試算をしたんですけども、それ現実的ではないので、この地域ならではの農業用排水も含めたさまざまな部分を繋ぎ合わせてですね、排水するということが経済的にも、恐らく時間的にも良いだろうということで、これはですね、大規模工事となりますので、国の費用で実施できるよう、これは国の方に私から直接申し上げていきます。県と連動しないといけないので県の方とも話しながらこのプロジェクトチームを通じて進めていきたいと思えます。

☆司会

それでは次の方いらっしゃいますか。一番前の方。

質問⑮ 大木等の伐採について

◆質問者 12

〇〇と申します。市として今いろいろ出ていますように、水害に対するさまざまな取り組みというのが最も大事だということはよく理解しております。ただ、災害というのはそれだけではないですよ。皆さまのご記憶にもあろうかと思いますが、平成2年には竜巻災害がございました。これはめったに起こることはないと思えます。それから台風等が来る時に時々発生しますが、大きな木が倒れて、それによるある程度停電が生じる、或いは交通障害を生じるということがございます。この市街地の辺りでは、なかなか気付にくいことだと思うんですけども、私も〇〇だとか農業地域なんかはですね、多分戦後間もなく植えられたであろう木が大木化しまして、宅地内とか空き地の真ん中あたりは特に問題はないと思えますけれども、私が最近ずっと問題となっているのが道路沿いの大きな木でございます。これは明確にそのお宅があつて所有者がはっきり分かるものと、単なる空き地で所有者が分からないもの、さまざまな形態であるのですが、それはともかく、それがずっと年々大きくなるばかりで、ほとんど手入れがされていないという実態が、多分、色々なところであると思えます。私は以前、市からの出前講座の際にですね、担当の方に一度申し上げたのですが、市として別にお金を掛けて直接されることはないんで、行政指導の一環でですね、所有者への働きかけをしていただけないだろうか。小さな木はまだしも大きな木はせめて途中でカットして、大きな災害に繋がらないようにするか、それから例え大きなものでなくてもですね、樹木は例えば信号機に引っかかる

とか、それで通学路になっているところで、あと2年程前ですが〇〇の地区でですね、歩行者用の信号機が完全に覆われてしまいました。私はどなたかが動くだろうと思って3カ月間待ちました。結果、誰も動かない。仕方ないので私は警察署に申し入れしまして、約半月後に何とか解消はいたしました。ただ、市の直接の担当というそういうところは、多分警察が所管だと思うんですけども、もちろん地元の自治会が動かなきゃいけないということも承知しております。ですがやはり、残念ながらそれらが十分に機能してるとは言いがたい。ということで、最初の話に戻りますが、所有者の責任において切るべき問題だとは思いますが、現状において、なかなかそうならないというのが問題だと思います。したがって、市としては直接、広報とか或いは別の形もあるかと思いますが、働きかけしていただくと同時に、やはり地元の自治会に対してですね、よくご指導いただいて、自分たちで何とかそれを解決する方向へ強く働きかけをしていただければと思います。これは大してお金も掛からないのではないかと考えておりますが、よろしくお願ひします。

☆市長

ありがとうございます。ご指摘のとおり、そういう場所が散見されると思いますので、自治会の皆さま、まとめていただいて対応していただくか、もしくは市の方の担当課、それでも駄目でありましたら、「市長への手紙」で直接いただければと思いますのでよろしくお願ひします。

☆司会

それでは進行係としまして示された時間がもう残り10分ぐらいになりましたので、もう1人、2人ぐらいですね。ずっと挙げております方、どうぞ。

質問⑩ 茂原市のメリット・デメリットについて

◆質問者 13

〇〇と言います。何年か前に、毎日が日曜日の定年を迎えまして、やっと茂原市の方に目が向くような形で住まさせていただいております。市長に伺いたいのですが、茂原市の一番のメリットとデメリット、この二つは何だと思いますか。市長に当選されて、日々毎日考えていると思うのですけれど。

☆市長

これは非常に難しい、完全に私見ですけども、メリットはやはり自然があつて都会にも近い、いわゆる交通利便性が良いということだと思います。自然が豊かで。デメリットはいろいろありますけれども、やはり私は水害だと思います。

◆質問者 13

おっしゃるとおりだと思います。デメリットは水害だと私も思います。メリットは、茂原市は何といても天然ガスが採れます。ヨウ素も採れます。それが天然ガス、ヨウ素が採れることによって、先ほど市民の方がグラフで示されたように、採り過ぎちゃって地盤沈下が起こっているのも事実だと思います。これデメリットをメリットに変えるためには、天然ガスを採っている会社なんかに一応ちゃんと今現在もやっていると思うのですけれども、戻す形で市に報告させるような形でしっかりとること。あとこれメリットに変えるためには、ヨウ素および天然ガス、日本一都市ガスが安い地域だと聞いていますので、これを活かして人口減少の方にも影響があると思うのですけれども、エネファーム導入でこれを補助金で少し、今も市役所でされていると思うのですけど、もう少しこれを増やして、他の地域の都会なんかに住んでる人たちに、茂原市はこういう形で管理しているし、移住してくる方なんかに対して、住宅なんかの質を上げることを努力をしているんだという強いPRになると思います。あと医療体制なんかは多少あれなんですけども、それにも関係すると思うのですけども、白子町がやっている万歩計、あれなんかいい体制だと思うのですよね。ほんの少しのクオカードかなんかを出すような形でやればそれほどお金掛かなくて、それで高名な脳外科の医者を呼んでくるよりは、10年後、20年後に歩くことによって、市民の健康に貢献するのではないかと思って、そっちの方が大きいと思うんですよ。緊急ではないけれども、救急対応はとれないと思いますけれども、それをやった方が市長の株は上がりますよ。

☆市長

はい。ありがとうございます。ご指摘のとおりだと思います。まず地盤沈下の問題はやはり、いわゆる天然ガスの採掘も因果関係としてあるだろうなと思います。県がモニタリングしてまして、採掘で沈下が生じこれによる被害が発生した場合にはストップをかけるような仕組みができています。かん水から天然ガスを採ったものを埋め戻すというのはやっているのですが、やはりそれでも沈下しているというのが実情なのかなとは思いますが。ただ、沈下による被害が発生したらすぐストップをかける仕組みはもうでき上がっていますので、その辺、地元としてどう県と会社さんの方に絡んでいくかというところは少し研究させていただきたいと思います。それと、ヨウ素は世界第2位の生産量で、ペロブスカイトという日本初の太陽電池、これはヨウ素を使うので地産地消で、まさにそのペロブスカイトを付けた住宅で、かつ生活のガスは、天然ガスで安いというこの二つを売りに、これからの移住者向けの住宅開発というものはどうだというふうに今考えているところであります。ペロブスカイト、今日本で一番先に進んでいるのは積水化学で、この間、積水化学の本社の方にお話を伺ってきましたが、あと5年ぐらい研究がかかるのかなという話を受けましたので、そのペロブスカイトの生産の拠点も含めた工場誘致も要望をしてみました。省エネ住宅として、移住者を募るという意味では、先ほど話していた大きなテ

一マの一つになると思いますので、これもしっかりアピールしていきたいと思います。あと万歩計ですね、ご指摘のとおりで、健康ポイントやられてると思うのですが、茂原市もこれをやりたいというのと、あとそれを例えばクオカードもしくは地域通貨に私は繋げたいのですね。地域の中で経済を回す仕組みというのを一つ作ると。それでやはり自治会加入率の、それが助けになるか分かりませんが、いわゆるボランティアポイントもそういったものに含めると、一体的にそういったものを行いたい。費用負担はどうするのかという、恐らくご指摘のとおり長いスパンで見ると、やはり歩くことによって皆さんの健康が維持され、医療費の削減にも繋がると思いますので、それは今、銀行さんともですね相談しながら、地域通貨も含めた、まずは健康ポイントを万歩計を配るとかですか、携帯に万歩計付いていますので、それをこうやりとりして、繋げてもらうというそういう仕組みもですね、少し行っていきたいと思いますので。全て三つのご指摘、しっかりやっていきたいと思います。ありがとうございます。

☆司会

はい。それでは最後の質問とさせていただきます。

質問⑩ 災害時の生活用水等について

◆質問者 14

〇〇と申します。本当に身近な問題ということで防災、減災というようなお話で今日の会合はうたわれていますので、身近な問題になると思うのですが、いつ起こるか分からない災害ということですが、災害があった場合には、やはりどうしても必要なものが水だと思っています。飲料水については、多分今までの大きな災害の場合でも、どうにか確保、企業さんの努力だとか或いは個人の努力なんかで間に合うと思うのですが、やはり問題なのは能登の地震でもそうだったと思うのですが、生活用水を何処かで備蓄というのでしょうか何ていうのでしょうか、確保できるシステムみたいなものは、ある程度早急にやっておいた方がいいのかなと。ご存知のように洗い物の水だとかトイレの水だとか、場合によっては風呂の水もそれになるのかどうか分かりませんが、そういうものはどうしても生活する上で非常に大事な部分ではないかなと思っているので、市としてもある程度対策を考えていただくとありがたいなと思っております。少しご意見を伺いたいと思っています。

☆市長

ありがとうございます。やはり能登の地震を受けて水の大切さは本当にご指摘のとおりだと思います。飲料水に関しましてはいろいろな災害協定等の関係で、かなり備蓄は進んでおります。あと給水車の方もしっかりすぐ出れるようにはなっているのですが、やはり長期化した場合の生活用水というのはやはり非常に重要だと思いますので、ここは大きな

課題だと思います。それで今注目されているのは井戸ですよ。井戸からくみ上げて災害井戸として転換できるようなものということで、まだ茂原市はその点が少し弱いのかなと思います。やはり電動で皆さんポンプアップして使うと思うのですが、電気が駄目になった時に手動に切り換えられる設備が整っている井戸なのかというと、まだまだ進んでいないと思いますので、そこは少し大きな課題として進めたい部分ではあります。はい。ありがとうございます。

◆質問者 14

井戸水についてなんですけれど、前にも少し防災対策課の方から調査もあったのですが、今ほとんど井戸水って使っているお宅はポンプ式で皆電気使って上げているのですよね。そうなってくると本当になんかあった時には、やはりなんか昔小中学校なんかにも、ポンプアップとかというのを整備されたというのを知ってますけれども、何処かで本当にそういったものをやっておいた方がより災害があった場合には住民からすごく喜ばれるのではないかなというふうには思っています。

☆市長

はい。やはりその手動式のものもやれる、転換できるような対外移動の設置も必要ですし、全部がそういうわけにいかないと思いますので、いわゆる移動式の発電機を持っていて部分的に水をくみ上げられるものと、そこに対しての給水エリアにどれぐらいの水が必要なのかというのも本来はやっておかなきゃいけないと思いますので、そういったところも含めて防災対策課としっかりやっていきたいと思っています。

◆質問者 14

お願いします。

☆市長

ありがとうございます。

◆司会

どうもありがとうございました。以上で質問を締め切らせていただきます。

それでは、最後に市長から何かあれば一言お願いしたいと思います。

☆市長

皆さま長時間にわたり「市長と話し合う会」にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。やはり直近の生活に付随したさまざまな意見を多数いただいたことで、私も含め担当課、非常に勉強させていただきました。こうした機会が得られるのも非常に大

切な時間であると思います。また先ほどお話いただいているもので、すぐに回答できない課題のものも多くございますので、そうしたものも含めまして「市長への手紙」というものも設けておりますので、そうしたところで個別にご相談いただいで、たまにこう話し合う会をやって、平時から皆さま方と情報共有できるような関係性でありたいなと思っておりますので、なかなかまいお答えができないこともあると思いますけれども、そういったところでもですね、ご指導いただきながら進めていきたいと思っておりますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

◆司会

どうもありがとうございました。最後に事務局から皆さんに報告することがあればお願いいたします。

☆事務局

お疲れ様でございました。皆さま方、本日は貴重なご意見多くいただきましてありがとうございました。本日ご発言が出来なかった方、言い足らなかった方、多くいらっしゃると思います。申し訳ございませんでした。先ほど市長の方から話がありましたとおり「市長への手紙」というものがありますので、本日も本会場の出口、それから各公共施設に用意してございますので、ご利用いただければと思います。またアンケートを配布させていただきますので、ご意見ご記入いただきまして、お帰りの際に提出していただければと思います。よろしくお願いいたします。事務局からは以上でございます。

◆司会

はい、ありがとうございました。皆さまのご協力により滞りなく、議事進行ができましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上で議事進行役を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

7. 閉会

☆事務局

古作副会長、内海副会長、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、「市長と話し合う会」を終了させていただきます。皆さまお気をつけてお帰りください。本日は誠にありがとうございました。

— 了 —